

2010. 12. 6 「民主党よ、開き直りを辞め、両大臣を罷免せよ」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

国会は先週末で終わりました。私は、12月7日火曜日から15日までの9日間、参議院のODA調査会のメンバーとして、ベトナム・ラオス・カンボジアに視察に行つて参ります。この視察は、日本のODAがどのような目的で使われているかを検証するためのものです。海外からのビデオレターの更新が可能であれば、現地の様子も伝えたいと思っております。

年末にかけての政治動向ですが、仙谷大臣と馬淵大臣の問責決議が参議院で可決されました。しかし、未だに政府がこれに対応する動きを見せていません。それどころか、前原大臣は、「年が明けてもし野党が国会に出席しなかったら、野党は審議拒否による税金泥棒だ」と発言しています。私はこのような発言こそ慎まれるべきだと思います。我々は、仙谷大臣や馬淵大臣に非がないのに問責決議をしたのでありません。仙谷大臣の国会での出鱈目な答弁や不誠実な答弁の非礼ぶりは何度も問われ、その場で謝罪をしても、その後も同じことを何度も繰り返してきました。また、政治的には、6日の毎日新聞によると、尖閣問題において中国人船長を釈放した判断は、今までの民主党による説明とはやはり違い、政府の内部でAPECを成功させたいがためにこのような判断をしたのだそうです。これが弱腰外交だとして菅政権の支持率は一気に下がりました。

た。この事件に代表されるように、仙谷大臣は自分の立場を守る為にはあらゆることをしても、自国を守るという考えは始めからないようです。このような方が内閣の中枢にいること自体、私達は認められません。民主党が今まで言ってきた論理によれば、一番新しい民意は我々参議院にあります。その参議院の決議を受けても、民主党が反省しなければならない問題であるにも関わらず、審議に出てこない野党側が間違っているのだと発言する前原大臣の感覚は許せないことです。早晚、この方にも問責決議案が出ることになるでしょう。

以上のように、枚挙に暇がないほど民主党政権には問責対象者が多くいるのです。私達は、民主党が政府与党としてどう対応をするかを見守るしかありませんが、彼らが誠実な対応をしない限り、これ以上国会の審議を続けることはできません。それは民主党の発言や行動が全く信用出来ないからです。決議に対して民主党が開き直り、責任を取らないのなら、国会の議論自体が意味をなさないことになります。その事を国民の皆様にもご理解頂きたいと思います。民主党内でも、本音ではこのままでは政権が倒れてしまう、なんとかしなければという思いがあるだろうと思いますから、しっかり頭を冷やして彼らに考えて頂きたいと思います。

また、小沢議員の問題が明るみに出ました。前回の衆議院選挙で、仲間の議員に4億5千万円を超える大金を配っていたそうです。今更ながら、小沢議員の資金力には驚きますが、そのお金は、今まで私が追及してきた通り、小沢議

員の個人の財布から出ているのです。改革フォーラム 21 という旧新生党の財布から立て替えて小沢議員に戻っているようですが、そのお金は元を辿れば政党助成金や立法事務費という公金なのであり、それが小沢氏の財布になっているのです。小沢議員は、好きな人にはお金が使うけれども、そうでない方には出さないようですから、民主党の岡田幹事長は異議を唱えています。しかし、この事は随分前から分かっていたことです。国会が閉会し、野党の追及がこれ以上ないと分かると、さも自分達も小沢議員に対して距離を置き、意見しているように見せていますが、これは偽装工作です。このようなことをしているようでは、国民の信頼を得ることはできません。私は、民主党の体質をこれからも厳しく追及し、皆様方にお知らせしたいと思っています。またベトナムからビデオレターをお送り出来ればと思っております。今後ともよろしくお願い致します。ありがとうございました。